

解雇問題を解決し  
安全・安心のJALを

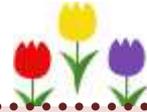
# 航空連ニュース

航空労組連絡会  
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル  
Tel 03-3742-3251  
Fax 03-5737-7819  
No.920(32-30) 2018年4月25日

## 争議解決に向け国民的運動と世論を

政府は解決に向け努力をつくせ 院内集会報告 その②

### 参加者からの意見



- ◆2月26日婦人団体連合会として本社に要請。初めて社屋内に入れてくれた。闘いの成果。「長い期間が原告にとってどれ程辛く苦しく困難を抱えた日々だったか。不当な解雇はあってはならない」と一日も早い争議解決をと話し、皆が利用者の立場で思いを発言。労務の方は一生懸命メモをして全て上司に伝えるといった。心を動かされたと思う。7年間の闘いは人間の尊厳をかけた闘いだった。決着をつけなければならない。ベテランのCAから活躍の場を乱暴に奪ったのが解雇事件。結婚しても子供産んでも介護しながら仕事を続けられる道を闘って切り開いてきた原告たち。組合員としておかしいことをおかしいと言ってきた彼女たちを、年齢や組合員を理由に解雇。女性の活躍をこんな形で奪ってよいはずはない。政府が女性の活躍という言葉を捨てていないのであれば、政府として解決の努力を尽くさせなければならない。今が正念場の闘い。力を尽くしたい。
- ◆国労が24年間闘って解決に至る力は何だったのか。闘争団、組合、支援者、政治の4つの力が一つになって世論を作り上げたから。JALの両組合が解決に向けた糸口をたぐり寄せた春闘だと表明した。今こそ機運を作る。JALの解決にも3つの力が必要、そして政治の力も重要。5月には集会や宣伝行動も取り組んでいきたい。首都圏を騒然とさせるような大きな集会を行い、世論が認識するような闘いを作っていきたい。
- ◆JALは労使の信頼関係を失ったまま、企業理念と真逆な事をしている。2010年に戻って反省を持って解決。飛行機はチームワークで安全に飛ぶもの。労使のまともな関係がなければ安全は守れない。啓発センターに行くと、機内で家族に書いたメモがある。あの日に帰って安全を守ると言うならこの問題を解決させよう。
- ◆労働条件の改善に向けて、精一杯力を出している職場の闘いに敬意を表したい。不当労働行為が最高裁で断罪されている。JALの一番の弱点である。これを武器に全国的に大きな運動を作っていくことが解決の早道。全国で30の支援組織がある。全国で様々な行動をし、優れた大きな運動ができる組織をもって、職場の労働組合も健全である。これを闘いの柱にして、これまでの闘いを継承発展させ、大きな闘いを取り組んでいく。
- ◆この7年間精一杯支援活動してきた。JAL闘争を支援することは価値ある闘いである。運動の方向については、国民共闘を通じて示してもらいたい。不当判決が確定した中で、団体交渉という労使関係でしか解決は計れないと考える。組織的には少数ではあるが、契約制CAの闘い、マタハラ闘争、人員要求、安全に拘わる政策要求では、職場では多数派になっていることを確信。要求の多数派から組織の多数派になる事を祈念する。
- ◆解雇3兄弟の長男で闘っている。復職したいパイロットをなぜ戻さないのか。戻した方がJALにも旅客にもプラスになる。社保庁も闘いによって個人の責任でないことを認めさせた。連帯して勝利をつかもう。
- ◆年末、今春闘と、当該労組が一步踏み込んで頑な会社を攻めている努力に敬意。闘いをどうやって勝利に導くか。そのために争議団と当該労組と呼応して、国民的運動を作り世論を巻き起こすことが私達の役割。秋には「JAL争議の闘う展望」と題して学習会をする。6月1日には、地域で大きな運動を作る予定している。大田区の37駅全てで30分程度のローラー作戦的な宣伝行動をしたい。働き方改悪の最先端のJALの闘いを、多くの労働者や改憲に不安を抱える国民の闘いとも結合させながら、区内の隅々に知らせていきたい。



## 日本共産党 山添拓参院議員

議員のほか、自民党、立憲民主党、共産党より秘書の方10名が参加しました

今、政治は隠ぺい、ねつ造、改ざんのオンパレードで安倍政権が末期的な症状にある。

解雇問題は、粘り強い、諦めない闘いが新たな局面を迎えている。植木前社長が解決の必要性を匂わせる発言をした。責任を持って納得いく解決をして頂きたい。8年目に入った争議が衰えるばかりか、活動を広げて相手を追い詰めていることに確信を持つことが大事。

この解雇が許されるならば、労働法制における解雇権濫用法理を無視して良いことになる。V字回復しているのになぜ165名を戻せないのか、働くルールを勝手に壊すなどという怒りが多くの人に共有されているからこそ、闘いが続き広がっている。働く者への攻撃と改めて噛みしめている。新たな前進を必ず勝ち取れるよう、国会の内外で共に頑張りたい。

## 日本共産党 畑野君枝衆院議員



今、解決しなくていつ解決するのか。これまでの闘いを確信にして、皆さんの力が何よりも最大の力です。一緒に頑張りましょう。



【写真】発言等を聞く山添議員(右)と初鹿議員

## 立憲民主党 初鹿衆院議員

なかなか解決せず歯がゆく思っている。今、政府もおかしくなっている。一体何を信じて良いか分からない政治状況。厚労省もひどい。労働局長がマスコミに対して、是正勧告してやろうかと脅しも取れる発言をした。厚労省の襟を正さないと前に進まない。JALはILOから指摘をされていて、対応の変化がないのはおかしい。国がきちんと間に入って話し合いの場を作らせるのが国の立場。オリンピックまでに解決をしなければいけないと思う。増便で羽田のルートを変える動きがある。パイロット不足の問題がある。復職したいパイロット沢山いながら戻さないのが不思議。現実的なことを考えて、話しあうことが経営にも旅客にもプラスになる。頑張りましょう。

立憲民主党の堀越啓仁衆院議員、阿部知子衆院議員、自民党のはせひろし衆院議員、共産党の山下芳生参院議員、宮本岳士衆院議員、田村智子参院議員、吉良よしこ参院議員の事務所から秘書の方が見えました。

## ～行動提起と閉会の挨拶～ 津恵事務局長

10名の発言があった。出された意見は幹事会で論議し、今後の運動の中で生かしていきたい。統一要求を受けて、日航が検討をしている事が伺える状況へと事態は動いたが、解決を決断したいという状況には至っていないのも事実。年末では「持ち帰る」、1月には社長が「私の代で解決したい」と発言した。労使交渉での発言は重いもの。一気に攻めて発言を履行させる闘いが求められる。

パイロット不足、ベテラン不足が深刻、会社は認めないが、ここ数年の回答を見ると人員・人財不足に対応した回答が目立つ。会社も追い込まれていることの表れである。解決は待たない。会社を解決に踏み出させるための運動を強めていくことが重要である。

今後の運動については、国会議員の協力も得てILO勧告やオリンピックの調達コード等を活用しながら行政を動かし、JALの外堀を埋めて解決せざるを得ない状況を作ること。組織委員会へ要請に行ったが、電話で「組織委員会としてどう対応するか検討させて貰う」との返事があったが、検討結果はまだ示されていない。

そして、何よりも重要なことは、原告団と当該労組の団結を固め労使交渉をはじめとするJAL内の闘いを強化すること。そして、日航内の闘いと共鳴し合う支援共闘の運動で、JALに解決の決断を迫っていくことである。

具体的行動では定例の宣伝と本社前行動に取り組むとともに5月には、全国統一行動として、全国主要都市での宣伝と日航支店への要請を実施し、6月の株主総会に向けて追いあげていく運動を進める。行動の一つ一つを成功させ、必ず争議の早期解決を勝ち取る。そのために奮闘することを誓いあって本集会を閉会とします。